

事前評価調査書

事業名		街路事業 都市計画道路茨木箕面丘陵線（岩阪橋梁）整備事業	
担当部署		都市整備部 交通道路室街路課街路グループ（連絡先 06 - 6994 - 4424）	
事業箇所		茨木市 大字粟生岩阪	
事業概要	目的	茨木箕面丘陵線は、新名神高速道路へのアクセスとなる北大阪地域の幹線ネットワークであるとともに、国際文化公園都市（彩都）の骨格を成す都市計画道路であり、本事業区間は、そのうち彩都西部地区と中部地区を結ぶ道路整備を行うものである。独立行政法人都市再生機構（UR）が施行する中部地区は、大阪を支える産業拠点を形成することを予定しており、本事業は、中部地区へのアクセス道路としてURによる整備に合わせて府が実施するもので、彩都への企業誘致のために必要不可欠なものである。	
	内容	事業延長L = 280m、幅員W = 33.7m ~ 45.4m 車線数：暫定2車線（完成4車線のうちの西行き部分を暫定整備） 橋梁整備区間 第1橋梁（鋼橋） L=47m W=11.8m 第2橋梁（鋼橋） L=101m W=11.8~16.5m 土工整備区間 街路築造工 L=132m W=11.8m	
	事業費	全体事業費：約17億円（暫定2車線整備分、ただし用地費は4車線分） （内訳）調査費等約 1億円 用地費 約 3億円 工事費 約 13億円	
		【工事費の内訳】	【積算根拠】
	事業費の変動要因	【他事業者との協議状況】 URとの予備検討実施済み。 【今後の事業費変動要因の予測】 土質調査実施後において、岩盤掘削の能力の変化や、法面防護工について工事費の増減が予測される。 将来の彩都へのライフライン供給計画の変更等により、橋梁添加物の変更に伴う構造変更等による橋梁構造の変更が予測される。	
	維持管理費	4,100,000円/年（国土交通省費用便益マニュアルより）	
	関連事業	国際文化公園都市特定土地区画整理事業 国際文化公園都市モノレール	
上位計画等の位置づけ	大阪府都市基盤整備中期計画（案）改定版（H17.3策定） 大阪府交通道路マスタープラン（H16.3策定） 提案型市場調査検討会からの提言を受け、府としての方向性を確認（H20.12.8）		
優先度	本事業は、中部地区を、大阪を支える産業拠点として整備するために必要不可欠なアクセス道路であり、提案型市場調査結果によると、平成25年度まちびらきに向けた取組みが必要であるとされ、府としての方向性の確認を行ったところ。		
事業の進捗予定	事業段階ごとの進捗予定と効果	平成21年度 調査設計、用地買収 平成22年度 用地買収 平成23～25年度 道路整備工事	（参考）URの土地区画整理事業 平成21年度 立地企業の募集・契約、調査設計 平成21～24年度 造成工事 平成25年度 まちびらき
	完成予定年	平成25年度	

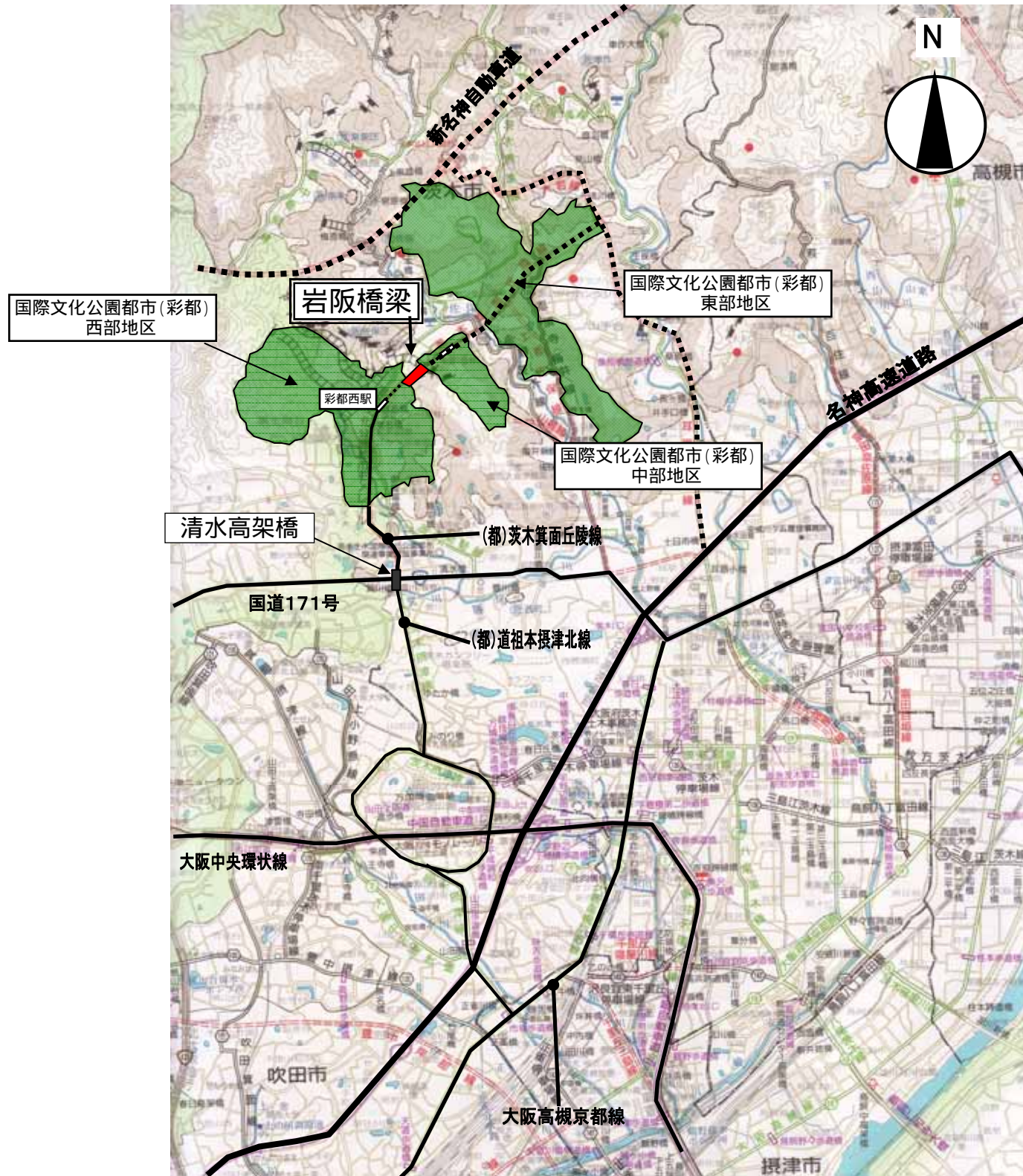
事業目的に関する諸状況 事業を巡る社会経済情勢	彩都の全体計画
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業主体 UR、民間事業者 ・計画面積 約740ha（茨木市域580ha、箕面市域160ha） ・計画人口 居住人口50千人 施設人口24千人 ・計画戸数 16.7千戸 ・施工期間 平成6～24年度 ・まちびらき 平成16年4月（西部地区の一部） <p><進捗状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発面積 約120ha（彩都西駅周辺を含めた西部地区の一部） ・住宅 約2.1千戸 居住人口6.2千人（H20.10現在） ・ライフサイエンスパーク 立地決定32社 <p><特定土地区画整理事業の再評価結果（H20.3.31 URが対応方針決定）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画を見直した上で事業継続 ・中部については、関係者が連携して施設立地の早期実現に向け、鋭意取り組んでいるが、現時点で立地が確定していないため、事業計画を見直すものとする。 <p><府としての方向性の確認（H20.12.8）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・府、UR、地元市、民間事業者などから構成される彩都建設推進協議会が、平成20年度に提案型市場調査検討会を設置し、調査を実施した結果、立地意向のあるエンドユーザー企業を確認。（土地取得希望面積は保留地面積以上） ・岩阪橋梁の事業手順（事業着手のタイミング）を確認 ・今後、開発の条件整備を行い、平成21年春を目途に、URと府が事業着手の判断を行う予定。 <p>都市計画道路 茨木箕面丘陵線の整備状況（国道171号～彩都西駅）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成16年3月15日 側道2車暫定供用 ・平成17年10月18日 本線（一部）暫定供用 ・平成19年3月6日 4車線全線供用（国道171号立体交差除く） ・平成20年度～ 国道171号立体交差（清水高架橋）着手 <p>大阪モノレール（彩都線）の状況</p> <p>都市計画道路 茨木箕面丘陵線に併設する国際文化公園都市モノレールの進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪大病院前～彩都西駅 L=4.3km 平成19年3月19日開業 ・彩都西駅～（仮称）東センター駅 L=2.2km（彩都の開発熟度に合わせ整備）
地元等の協力体制	彩都の土地区画整理事業者であるURや地元市（茨木市）などから、早期整備を要望されている。

事業効果の分析	具体的な便益内容		備 考
	費用便益分析	<p>・ B / C = 1 . 9 (完成 4 車線として算出)</p> <p>便益総額 B = 5 4 . 2 億円</p> <p>移動時間短縮便益 31.1 億円</p> <p>走行経費減少便益 13.9 億円</p> <p>交通事故減少便益 9.2 億円</p> <p>総費用 C = 2 8 . 2 億円</p> <p>建設費 28 億円</p> <p>維持管理費 0.2 億円</p>	<p>【算定根拠】</p> <p>費用便益マニュアル(国土交通省道路局・都市地域整備局 H15.8 策定)により算出</p> <p>便益:事業実施した場合と実施しない道路整備による、利便性、快適性の向上による便益を計上。</p> <p>費用:前述の全体事業費に加え、完成後 4 0 年間の維持管理費を現在価値化し算出</p> <p>受益者:地区住民、施設利用者など</p>
	その他の指標 (代替指標)		
定性的分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中部地区に予定されている国際的な自然文化・学術研究の新しい交流拠点の整備を支援 ・ 中部地区に予定されている周辺環境と調和した大阪を支える産業拠点の形成を支援 ・ ライフサイエンスゾーンとしての西部地区と中部地区との連携強化 ・ 災害発生時における緊急輸送路、避難路の確保 ・ ライフライン導入空間の確保 ・ 国際文化公園都市(彩都)全体への企業誘致促進に寄与 		

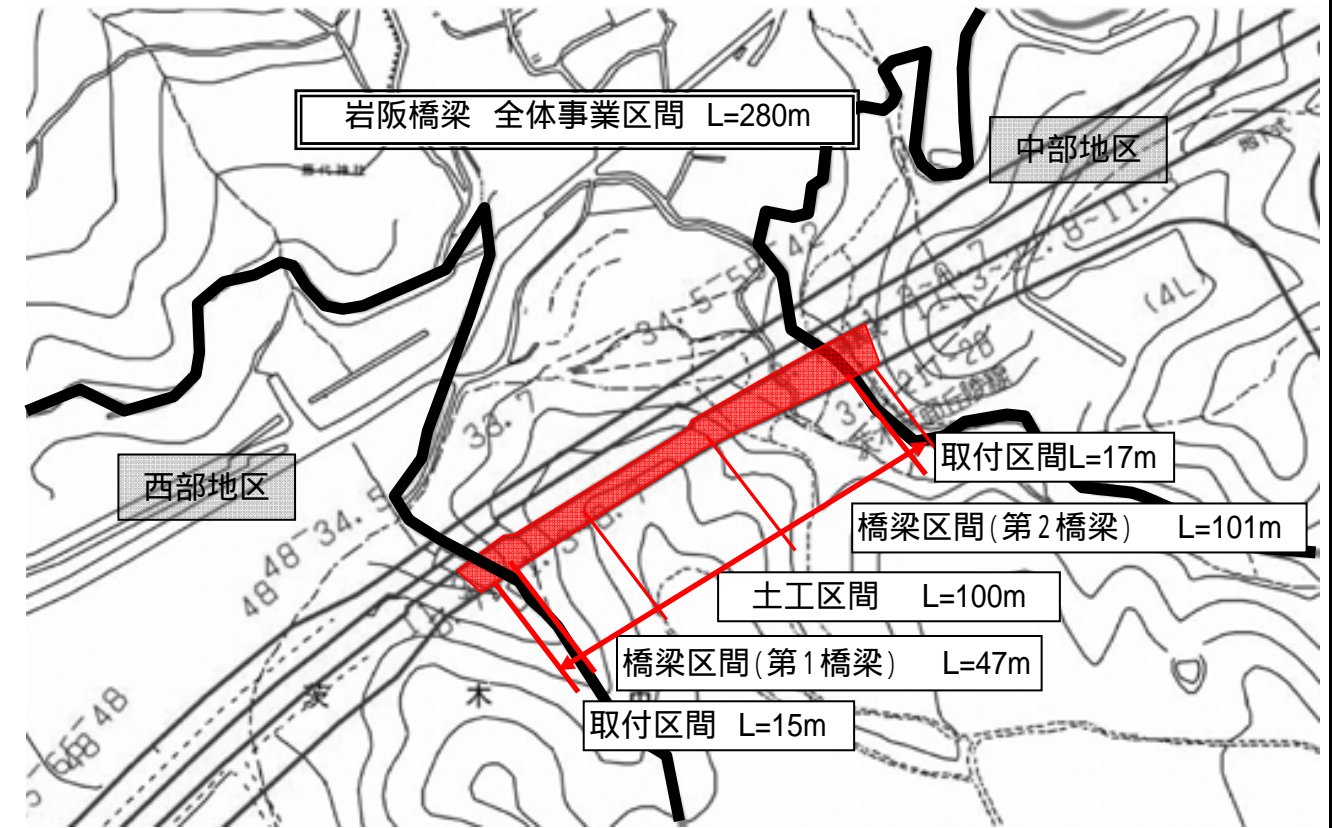
自然環境等への影響と対策	<p>(橋梁整備に伴う日照障害、電波障害の防止)</p> <p>事業実施にあたっては、現地調査を実施のうえ、対策が必要となる場合は対策を検討</p> <p>(周辺環境との調和)</p> <p>事業実施にあたっては、色彩等の周辺環境の調和するよう修景検討を行う。</p>
	<p>本事業は、彩都中部地区へのアクセス道路であるとともに、ライフサイエンスゾーンとしての西部地区と中部地区の骨格を形成する茨木箕面丘陵線を接続・連携するため、必要不可欠である。</p> <p>また、ライフラインの収容空間の機能を担う道路であることから、代替案については考えられない。</p>
	<p>本事業は、URの整備に合わせ府が実施するものであり、事業着手にあたっては、URの事業進捗を見極めながら進める。具体的には、URの事業着手(立地企業の募集)後に測量・土質調査・設計を行うことに合わせて、府も本事業の測量・土質調査・設計を実施し、また、URの立地企業の募集・契約が成立後に造成工事を行うことに合わせて、府が用地買収・工事を実施するものとする。</p>
代替案との比較検討	
その他特記すべき事項	

都市計画道路茨木箕面丘陵線（岩阪橋梁）整備事業 概要図

事業箇所図



平面図



標準断面図

